

# 兵庫の未来を切り拓く

## 変化する世界

国際社会では、先行きの不透明感が高まっています。

今年1月、米国で新政権が発足しました。アメリカ第一を掲げた政策転換が進んでいます。ヨーロッパでは昨年、英国がEU離脱を選択しました。長らく統合の道を歩んできた欧州で分裂の兆しが見え始めています。中国やロシアも独自の動きを強めています。

突出したリーダーがいなくなった世界は不安定さを増し、テロも後を絶ちません。貧富の差が拡大し、対立をおおる攻撃的な言動が目立ってきています。社会は分断の色合いを深めています。

一方で、経済のグローバルな結び付きは既に分かち難いものとなっています。人、物、資本が自由に動き回り、情報は瞬時に共有されます。

私たちの生活は、こうした世

界の動きからさまざまな影響を受けます。

また、人工知能などの科学技術の発展や巨大災害の発生、気候変動なども社会に思わぬ変化をもたらします。

## 変化への対応

このような世界を生き抜くために必要なのは、変化への対応力です。

まず、想定外をなくす努力をしなければなりません。思い込みを排し、想像力を働かせて複数のシナリオを描いておく必要があります。

さらに、いかなる事態が起こるうとも、変化を積極的に取り込み、したたかに柔軟に対応していかなければなりません。

## 兵庫の道のり

兵庫が歩んできた道のりも、変化への対応の連続でした。

150年前の1868年、明治維新と時を同じくして兵庫

県が発足しました。当初は複数の飛び地を管轄する小さな県でしたが、1876年には、世界に開かれた神戸港の発展を支えるため、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国からなる雄県兵庫が誕生しました。近代化の道を歩む社会の変化に対応するため、歴史文化、気候風土の異なる五国が一つになったのです。

20世紀は、「欧米に追い付き追い越せ」と、日本が急発展を遂げた時期でした。兵庫も工業化と都市化にまい進しました。戦後の焼け野原からの復興とそれに続く高度経済成長期には、もろのづくり産業の発展と進取の気性に富む人材の活躍で、その一翼を担いました。この間、開発による自然破壊や公害の問題にも立ち向かってきました。

やがて日本が世界第2位の経済大国になり、従来型の成長の限界が見えてきた時期に、兵庫の転機となる阪神・淡路大震災が発生しました。

創造的復興の取り組みの過程から、量より質、物より心の豊かさ、画一より多様、標準より個性を大切に作る県政にかじを切ったのです。

そして21世紀。成熟社会を迎える中で、本県は新たな県政への一歩を踏み出しました。これが、今につながる「参画と協働」の県政です。

この150年、県民は130万人から550万人に増え、街並みも大きく変わりました。社会の変化を的確に捉え、常に一歩先を見据えた地域づくりを進めてきたのが、私たちの兵庫県です。

## 自立への道

今、日本が直面している最大の変化が、人口減少と少子高齢化、そして東京一極集中です。

出生率は、この10年、上昇傾向にあります。しかし、少子化を食い止める水準とはまだ大きな乖離があります。安心して子



兵庫県知事  
井戸敏三

どもを産み育てることができると、社会づくりを進めなければなりません。

介護の必要な方や、在宅で介護を行う世帯が増えています。老後の生活不安や貧困も広がっています。2025年には、団塊の世代が75歳以上になります。高齢になっても安心して暮らせる地域づくりを急がねばなりません。元気な高齢者が活躍する場も増やす必要があります。少子化、高齢化への挑戦です。

また、若者を中心に東京圏への人口集中が続いています。東京一極集中は、過密による弊害や、国土の安全の確保などから問題であるだけでなく、地方を疲弊させ、日本全体の活力を損ないます。

若者が地方に移住、定住するには、その地方に魅力的な就業の場や思い切った新しい仕事を始められる環境が必要です。

今、これらの課題解決に向けて、地域創生に取り組んでいきます。それぞれの地域が持ち前の強みを生かして主体的に課題に取り組む、自らの手で将来を形作っていく、この「自立への道」を進まなければなりません。

## 地域創生を軌道に乗せる

地域から日本の未来を切り拓く。今こそ兵庫ならではの自立の道を歩み、地域創生を成し遂げようではありませんか。数々の変化やそれに伴う課題を乗り越えてきた兵庫ならできるはず

本県の地域創生は2年目に入ります。目指すは、人口が減っても、少子高齢化が進んでも、活力を保ち続ける地域を創ることです。

地域創生に近道はありません。一つ一つの課題にしっかりと取り組み、地域創生を軌道に乗せ、兵庫を新たな発展へと導かねばなりません。

### ▼地域創生の本格化

新年度の施策の第一の柱は、地域創生の本格化です。地域創生戦略に基づき昨年スタートした取り組みを前進させます。

兵庫の未来を担う人づくり、県民の活躍の舞台となる働く場の充実、生涯にわたる暮らしの安心確保、地域ににぎわいを生み出す交流の拡大、これらの施策を総合的に展開し、元気な地域を創ります。

### ▼地域創生の基盤づくり

第二の柱は、地域創生の基盤づくりです。

安全こそ、県民の生活と社会経済活動の基です。阪神・淡路大震災から22年がたち、記憶の風化が懸念されます。震災の経験と教訓を生かし、災害対応力を進化させることは被災地の務めです。

ハード・ソフトの両面から防災減災対策を進め、県土の安全性を高めます。

活力ある地域に不可欠な交流基盤の充実にも取り組みます。

### ▼地域自立の推進

第三の柱は、地域自立の推進です。

県民の要請に的確に応えられる行財政構造を実現するため、行財政構造改革の推進に関する条例を制定し、努力を重ねてきました。収支不足は大幅に改善し、30年度の収支均衡という目標達成が視野に入っています。最終2力年の改革に取り組んでいきます。

また、地方が自己決定、自己責任を貫ける体制の確立を目指し、地方分権改革にも根気強く取り組みます。

## 県民と共に創る兵庫

地域が未来に向けて進んでいくためには、夢が必要です。日本の社会に閉塞感へいそくが漂っているとするれば、それは、人口や経済の成長に代わる新たな発展の方向を見いだせていないからだと考えます。先の見えない時代だからこそ、これからのような兵庫を創っていくのかを県民と共に考えなければなりません。

私たちは、21世紀の幕開けに、目標となる地域の将来像を示す21世紀兵庫長期ビジョンを県民と共に作り上げました。そして「参画と協働」を基本姿勢に、その実現に取り組んできました。これが今の兵庫の原点です。

折しも来年は、兵庫県発足150年の節目を迎えます。改めてこの原点に立ち返り、多様な地域に住まう県民一人一人の夢や願いを基に、これを見える化し、長期ビジョンの実現に向けた「2030年の展望」を策定します。

県政は県民と共に創り上げるもの。兵庫の未来を切り拓く新たな一歩を共に踏み出そうではありませんか。